

びび通信

ワークセンターびび広報紙

2009.7.24

発行

南丹市社会福祉協議会 美山支所

ワークセンターびび

〒601-0751 南丹市美山町島住古瀬8番地

TEL.0771-75-1660 FAX.0771-75-0829

行ってきました!! 南紀白浜一泊旅行 2009年5月31日～6月1日



南紀白浜一泊旅行



5月31日～6月1日、和歌山県の白浜温泉まで一泊旅行に行ってきました。美山と日吉と合同で、34名の参加がありました。初めてのリフト付き観光バスはとても乗り心地がよかったです。

一日目は梅干館を見学し、夜には楽しい宴会。二日目はアドベンチャーワールドと、どれとれ市場でのお買い物。たくさんのおみやげと楽しい思い出と共に無事に家路に着くことができました。

参加者の感想

樂しかつた
アドベンチャーワールド
5月31日から一泊旅行に行つてきた。和歌山は遠かつた。
バスの中ではほとんど寝ていた。
ホテル古賀の井に着いて、部屋に入った。きゅうけいしてお茶飲んだ。お風呂に行つた。おけのお風呂があつた。熱かつた。
次の日、はやおきして朝風呂に行つたが、まだ開いてなかつた。
アドベンチャーワールドでパンダを見た。パンダかわいかつた。イルカのショーもかわいかつた。
次の旅行は部屋を仲いい人と一緒にしてほしい。

美山本所 武内香名子さん



ワーケンタービビの旅行について
1年ぶりの1泊旅行でみんなわくわくして楽しそうでした。わたしもその中の1人です。今年はびび美山のなかものみなさんともいっしょです。今年はじめていっしょで美山のみんなもわくわくつきづきだと思います。日にちは5月31日から6月1日でした。ガイドつきのバス旅行ときいてわくわくしました。ガイドさんの年は20歳から30歳くらいかなと
思つていてはじめてあつた時はがつかりしました。うたもうたつてもらえたと楽しみにしていたのに1度もうたつてもらえずがつ

日吉分所 横井裕子さん



かりでした。ビデオも見せても
らえずがつかりでした。ガイ
ドさんのあんないとトイレきゅ
うけいもしてやつとホテル古賀
乃井につきほつとしました。そ
れからえんかいが終つてからか
ら入浴をしてゆつくりねました。
朝おきてみんなでバイキングの
朝食をたべました。各はんにわ
かれてパンダやそのほかいろん
などうぶつを見てあるいた。サ
ファリパークを見てまわり、な
かでもおサルの赤ちゃんがかわ
いかつたです。フラミンゴのピ
ンクの羽もきれいでした。

卓球バレー大会予選通過



6月21日(日)全京都障害者総合スポーツ大会卓球バレーの部が開催されました。90チーム900名の参加があり、びびは美山から2チーム、日吉から1チームが参加しました。びび美山Bチームが予選リーグを見事通過し決勝トーナメントへ。決勝トーナメントでは惜しくも負けてしまいましたが、それぞれに次への目標ができたようです。



7月17日(金)遊youひよしにて障害者ふれあい交流会『こことも』を開催しました。友達や恋人が欲しいけどなかなか出会いがない…という声から誕生したこの企画。今回が初めての試みでしたが、参加者からは「楽しかったので毎年してほしい」という嬉しい感想をいただきました。

この会で友達の輪が広がり、毎日の生活が少しでも楽しいものになることを願い、また次回も楽しい会を企画していきます。



お知らせ



南丹市ケーブルテレビの番組
「ふくしの森」でワークセンター
びびとそよかぜ美山・そよかぜ日
吉のお知らせが流れています。

毎月第4木曜日

ぜひご贅ください！！

職員異動のお知らせ

異動

上園 和子（新所属 八木支所デイサービスセンター）

このごろ思うこと

竹内晶

つい先日、障害者のふれあい交流会を開きました。「友達がほしい」「将来結婚したい」などの利用者さんの思いに応えるため、出会いの場、交流の場を作ろうと思いました。初めてのことなので、近隣の施設や関係者に声をかけたり、口コミ的な声かけだったので、参加者も、普段見られない微妙な笑顔を見せたります。参加者も、普段見られない微妙な笑顔を見せた。「こんな催しは何回もしてほしい」と喜んでもらいました。

他方、建前では反対する人はいませんが、「ご家族が心配される」「火をつけることになる」などの声も見え隠れし、難しい問題だなと思いました。

普通誰でも異性に感心を持ち、恋愛や結婚を考えるのですが、いくつもの失敗

や挫折を経験し、そこから学びます。失敗を許されない障害者、周りのしつかりした人がレールを引かないと進めない障害者。私たちの目指す支援ではない様に思います。本人ニーズに基づく支援や自己決定の支援人権擁護を掲げているのだから。

自然な要求に思えても世の中にはいろいろなハードルがあるということを改めて認識しました。逆に、ハードルが高くなればなるほど障害者自身が暮らしくなることも考えなければなりません。「ハードル」(障害)生活のしづらさは身体的、精神的問題よりも社会が作り出しているのですね。その証拠にハーハードルの高さは社会によつて違うのですから。